

ホームページ
へアクセスモバイルアプリ
へアクセス

ソウル 漢陽都城

発刊登録番号

51-6110000-000872-01

ソウルハニヤン(漢陽)都城への思いやり

- ・ハニヤン都城は自然と人、伝統と現代が調和した大切な私たちの文化遺産です。
- ・ハニヤン都城周辺には多くの文化遺産があります。
併せてご覧いただきますと、一層お楽しみいただけます。
- ・内四山の自然も大切な遺産です。登山の際は引火性物質の所持や使用を禁じます。
- ・町の近辺では住民の迷惑にならないようにご注意ください。
- ・駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。





ソウル漢陽都城とは

- 04 ソウル漢陽都城
- 06 歴史を抱く
- 08 人生を込める
- 10 未来を描く
- 12 美しいソウル漢陽都城
- 14 ソウル漢陽都城の全図

ソウル漢陽都城区間のご案内

16 ペガク(白岳)区間

- 18 白岳区間 1 : チャンイムン(彰義門) → 白岳曲城
- 20 白岳区間 2 : 白岳曲城 → フリヨン(臥龍)公園
- 22 白岳区間 3 : 臥龍公園 → ヘファムン(惠化門)

24 ナッサン(駱山) / フンインジムン(興仁之門)区間

- 26 駱山区間 1 : 惠化門 → 駱山公園ノリマダン
- 28 駱山区間 2 : 駱山公園 → 興仁之門
- 30 興仁之門区間 : 興仁之門 → チャンチュン(奨忠)体育館

32 ナムサン(南山、木覓山) / スンニエムン(崇礼門)区間

- 34 南山(木覓山)区間 1 : 奨忠体育館 → 南山公園バス停
- 36 南山(木覓山)区間 2 : 南山公園バス停 → ベクポム(白凡)広場
- 38 崇礼門区間 : 白凡広場 → トニムン(敦義門)の跡地

40 イヌアンサン(仁王山)区間

- 42 仁王山区間 1 : 敦義門の跡地 → 仁王山曲城
- 44 仁王山区間 2 : 仁王山曲城 → 彰義門

ソウル漢陽都城の情報

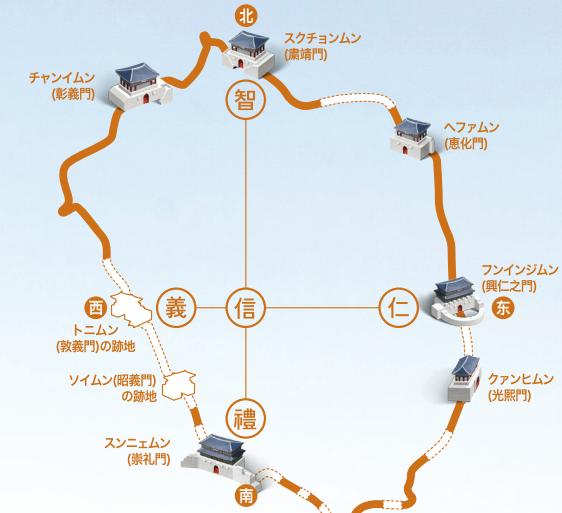
- 46 昔の絵と写真の中のソウル漢陽都城
- 48 地下鉄で訪れる都城周辺の名所
- 49 ソウル漢陽都城の関連機関
- 50 ソウル漢陽都城周辺の名所

ソウル 漢陽都城

[史跡 第10号]

ハニヤン(漢陽)都城は朝鮮王朝の都であるハンソンブ(漢城府)の境界を示すことでその威厳を表わし、外部の侵入から都を守るために築造された城である。テジヨ(太祖)55年(1396)に、ペガクサン(白岳、北岳山)・ナクタサン(駱駝山、駒山)・モンミョクサン(木覓山、南山)・イヌアンサン(仁王山)の内四山の尾根に沿って築造した後、幾度も改築が重ねられた。高さの平均が約5~8m、全長約18.6kmに及ぶハニヤン都城は、現存する世界の都城の中で最も長い間(1396~1910、514年間)都城としての機能を果たした。

ハニヤン都城には4つの大門と4つの小門が建てられている。四大門とはフンインジムン(興仁之門)・トニムン(敦義門)・スンニエムン(崇礼門)・スクチョンムン(肅靖門)のこと、四小門とはヘファムン(惠化門)・ソイムン(昭義門)・クアンヒムン(光熙門)・チャンイムン(彰義門)のこと。このうちトニムンとソイムンは滅失された。また、都城の外へ流れる水路としてフンインジムン周辺にはオガヌスムン(五間水門)とイガヌスムン(二間水門)が築造された。



*ソウルハニヤン都城のペガク(白岳)区間の全景

歴史を
抱く

首善全圖



*首善全圖[1840年代 | キム・ジョンホ(金正浩)作木版本 | 宝物 第853号 | 高麗大学博物館所蔵]

「首善」とは、『史記』の「建首善自京師始」、すなわち、「(世に)冠たる善を建てるものは京(ソウル)から始まる」と記されたことに由来する。
「首善全図」は、つまり「ソウル全図」を意味する。

漢陽都城には私たちの歴史すべてが刻まれている。三国時代以来、我が民族が発展させてきた築城技術と城郭構造が受け継がれている上、朝鮮時代の城壁築造術の変遷や発展過程までがそのまま反映されている。最初に築造された当時の姿はもちろんのこと、後に補修・改築された後の姿まで保持されているため、城壁を見て回るだけでも、歴史の足跡を垣間見ることができる特別な文化遺産である。

都城が初めて完成したのは約620年前である。テジョ(太祖)5年(1396)旧暦1月9日から2月28日までの49日間と、8月6日から9月24日までの49日間、計98日間をかけて、全国の農民約19万7千4百人を動員して築かれた。全工事区間(計5万9,500尺)は600尺の97区間に分けられ、各区間は千字文の順に名前が刻まれ、郡県ごとに割り当てられた。初めて築城されたテジョの時は、平地は土城で、山地は石城となっていたが、セジョン(世宗)の時の改築の際に、土城の部分もすべて石城に変えられた。年月が経つて城壁の一部が崩れたため、スクチョン(肅宗)の時に大々的に補修・改築が行われ、その後も幾度かの整備が重ねられている。一部の城石には築城の際に刻まれた記録が残されているが、テジョ・セジョンの時は区間名や担当の郡県名が、スクチョン以後は責任の所在を明らかにするために監督官・責任技術者・日付などが明記された。

都城は近代化の過程でかつての姿がかなりの部分失われてしまった。1899年に都城の内外を繋ぐ電車が開通したことにより、最初に城門の機能が失われ、1907年にスンニエムン(崇礼門)の左右の城壁が撤去されてから破損が激しくなった。その後の1908年には平地の城壁のほとんどが取り壊された上、城門もその姿が失われた。ソイムン(昭義門)は1914年に取り壊され、トニムン(敦義門)は1915年に建築材料として売却された。クアンヒムン(光熙門)の門楼は1915年に崩壊し、ヘファムン(惠化門)は1928年には門楼が、1938年には城門と城壁の一部が取り壊された。日本帝国は1925年にナムサン(南山)の朝鮮神宮とフンインジムン(興仁之門)隣のキヨンソン(京城)運動場を建設する際にも周辺の城壁を壊して城石を石材として使った。民間人も城壁に隣接している家を建てる際に城壁を壊したり、解放後も道路・住宅・公共の建物や学校などを建てる時にも城壁を取り壊されることが繰り返された。

都城の修復は1968年1・21事態直後にスクチョンムン(肅靖門)周辺から始まり、1974年から全区間に拡大された。しかし、一度破壊された文化財を完全に修復することは容易なことではない。かつては切れている区間を繋げることだけに重点が置かれ、むしろ周囲の地形と元の石材を毀損することも少なくなかった。ソウル市はハニヤン都城の歴史性を温存し世界の文化遺産として残していくために、2012年9月にハニヤン都城都監を新しく編纂し、2013年10月に国際基準に準拠したハニヤン都城保存・管理・活用計画を策定した。

都城は、2014年現在、全区間の70%、総12.8kmの区間が残っているか、修復された。スクチョンムン・クアンヒムン・ヘファムンは修復されたものの、クアンヒムンとヘファムンは本来の場所ではない所にやむなく建てられた。元の場所に戻すためには市民の知恵を集める必要があり、築城術などの無形の資産を発掘することにも努めなければならない。

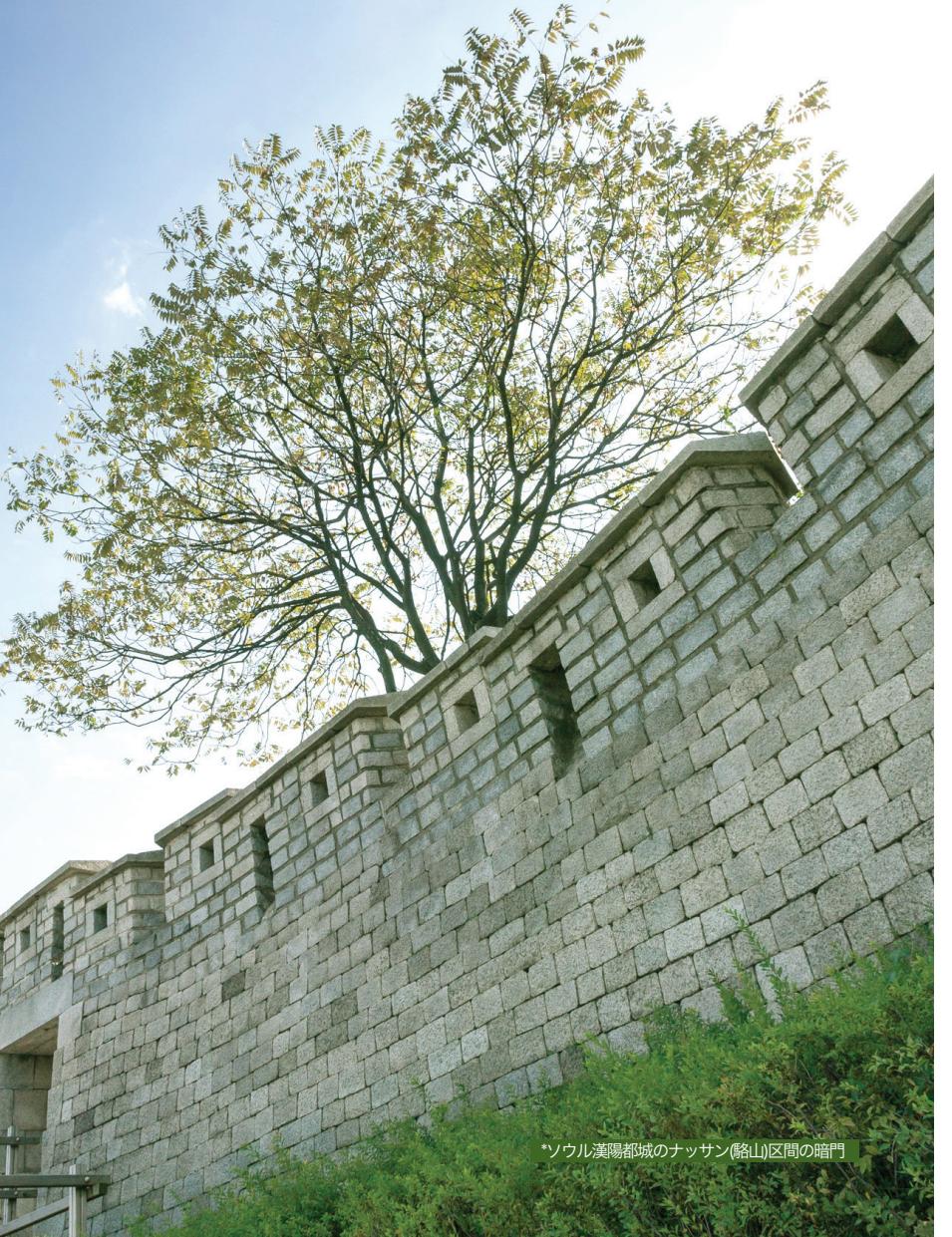


[崗字六百尺 刻字城石] ナムサン(南山) J-Gran Houseビルの土台から「崗字六百尺」と刻まれた城石が見つかった。これはハニヤン都城の97の区間のうち、崗字区間600尺の始発店という意味である。しかし、残念ながら刻字城石の元の位置は確定できない。ナムサン(南山) J-Gran Houseを建てる際に、城壁を取り壊した石材が石垣に使われたためである。



[ナムサン会賢区間、ハニヤン都城発掘現場] ナムサンの北西一帯の裾は、日本帝国が朝鮮神宮を建てながら城壁を壊した区間で、2013年に地面に埋もれていた城壁の一部(94.1m)が発掘された。テジョの時に初めて積み上げた石と、セジョンやスクチョン以後、補修を繰り返しながら積み上げられた石が次々と姿を現し、ハニヤン都城600年の歴史を証言している。

人生を 込める



約600年間、ソウルの垣根としての役割を果たしたハニヤン(漢陽)都城は都城民の日常生活にも大きな影響を及ぼした。ポンシガク(普信閣)鐘楼に吊り下げられている巨大な鐘は城門の開閉時刻を知らせ、夜明けには33回、夜は28回鳴らされた。夜明けに打つ鐘はパラ(バル_罷漏)、夕方に打つ鐘はインギョン(人定)と呼ばれ、民家の門扉もこの鐘の音に合わせて開閉されるなど、城門の開閉時刻は都城民の生活リズムを左右したとも言える。

ハニヤン都城はソウルと地方を分ける境界線であると同時に、生死を分かつ境界線でもあった。王も民も一生を終えた者は必ず都城の外に埋葬されるため、ソウルの人々にとって都城は「生きる」ことの証でもあった。

遠方から上京する人々にとって、ハニヤン都城は喜びの象徴でもあった。幾日もかけて歩き続けてきた人々はハニヤン都城を遠目で見て、「やっとハニヤンに着いたか」という安堵感に包まれたに違いない。特に科挙試験を受けるために上京したソンビ(儒学者)の場合は、都城の中での生活を目指して、昼夜を問わず本を読み続けてきただけに、彼らにとってハニヤン都城は格別な意味があったのである。科挙試験を受けにきたソンビの中にはハニヤン都城を一周しながら合格を祈った人も大勢いたと言われる。その光景が都城民たちに伝わり、「スンソンノリ(都城巡り)」という遊びに転じた。チョンジヨ(正祖)時代の学者であるユ・ドゥッコン(柳得恭)は『京都雑志』で、巡城ノリについて「都城を一周しながら都城内外の素敵な景色を眺める遊び」と説明している。彼の息子であるユ・ボンイェ(柳本芸、1777~1842年)も、『漢京識略』で「春と夏になると、ハニヤンの人々はペアを組み、都城の周囲を一周しながら景色を楽しむ」と記している。

ハニヤン都城はソウルと地方を分ける第一の境界でもあったが、これらを一つに結ぶ媒介でもあった。都城の中では採石が禁止されていたため、築城に必要な石はすべて城の外から調達せねばならなかった。城壁はペガクサン(白岳山)・ナクタサン(駒岳山)・モンミョクサン(木覓山)・イヌアンサン(仁王山)の尾根の上に築かれているが、それに使われた石はブッカンサン(北漢山)とアチャサン(峨嵯山)の一帯から運ばれたものである。ハニヤン都城は内四山と外四山を繋ぎ、都城内と城底十里(城外の十里)を統合していた。

ハニヤン都城を中心に都城の防衛体制が完成した。ハニヤン都城は防御施設としての機能はさほど果たせなかった。壬辰倭乱(文禄の役)、丙子胡乱など、外部から侵略された時はもちろん、内乱の時でさえ都城を守るために戦いか行われたことはなかった。王をはじめとする支配層は都城を捨て、力のない農民だけが残って苦難に立たされることが繰り返された。百姓の間から、「頑張って城を築いても何ら役にも立たない」という不満の声が出るのも当然であろう。ヨンジヨ(英祖)27年(1751)9月11日、ヨンジヨは「都城を守ることは民のための事である。変乱が起これば、予が先に都城の上に駆け上り民と一緒に戦う」という内容の守城諭旨を宣布し、都城を死守するとの覚悟を明らかにした。加えて、都城民にはそれぞれ担当区域を割り当て、有事の際は武器を持って担当区域を守るように命じた。都城民を主体とする都城の防衛体制が完成したのである。



[ヘファムン(惠化門)] 都城の外から眺めたヘファムンの姿。ヘファムンはハンソンからウイジョンブ(議政府)とポチョン(浦川)へと通じる重要な経路であった。

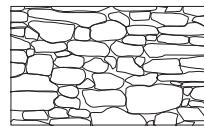


[ナッサン(駒山)区間] 現在のソウルの境界は内四山を越え外四山まで拡大されている。600年前、ハンソンブ(漢城府)の外郭境界であったハニヤン都城は、現在、首都ソウル中心部の文化財となっている。

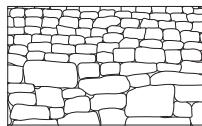
未来を 描く

ハニヤン(漢陽)都城は、山城と平地城を同時に築く高句麗以来の築城方法と技法が継承・発展された城である。ハニヤン都城は宮廷を囲む王宮の城と、都城を守護するブッカン(北漢)山城・ナムハン(南漢)山城が一体となっている。

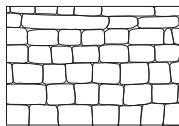
ハニヤン都城は築造後からこれまで幾度もの補修と改修が繰り返されてきた。城壁にはそれらの足跡がそのまま残っている。城石の所々に刻まれている文字や、時期別に異なる石材の形から、築城時期と築城技術の発達過程が読み取れる。ハニヤン都城が現場の博物館(On-Site Museum)とされるのはこのような理由があるからである。



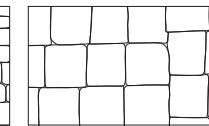
デジヨ(太祖)の時代における都城の築造(1396)



セジョン(世宗)の時代における都城の築造(1422)



スクチョン(肅宗)の時代における都城の築造(1704~)



スンジョン(純祖)の時代における都城の築造(1800~)

1396年1月と8月、2回にわたり築城され完成した。山地は石城、平地は土城で築かれた。城石は自然石を荒く削ったもののが使われた。

1422年1月に都城が再整備され、平地の土城は石城に積み直された。城石はトウモロコシの粒の形に削られたものが使われた。

崩れた区間が数回積み直されたが、城石のサイズを横・縦それぞれ40~45cm程度の大きさに統一し、以前より強固な城壁に仕上げられた。

ハニヤン都城は自然と一体化した特別な人工構造物である。昔から自然を大事に考える我が民族の意識は、自然地形をそのまま活かして築かれた都城にも表れている。自然との調和を考慮して築かれた城は、歳月が経つにつれ自然と一体化し、文学や芸術の素材となっている。

ハニヤン都城は現存する世界の都城の中で最も規模が大きく歴史が長い。1千万の人口を抱える大都市にこれだけの規模の古城が残されているのは世界的にも珍しい。破損された区間があるとは言え、現在は全体の70%がかつての姿を取り戻している。

ハニヤン都城は世界文化遺産としてその価値が認められ、2012年11月23日、ユネスコの世界文化遺産暫定リストに登録された。ハニヤン都城の世界文化遺産登録を目指すのは、先祖から受け継がれた「ソウルの象徴」をこれ以上壊すまいという決意の表れであり、都城周辺の自然景観と歴史景観を温存し子孫に伝えたいという誓いでもある。また、貴重な文化遺産を温存できなかったこれまでの反省の意味合いも含まれている。文化遺産を保存するために最も重要なのは、その文化遺産と共に生きる市民の愛情である。



美しいソウル 漢陽都城

漢陽都城の歴史的価値がわかるスポット

刻字城石が確認できるトンデムン
(東大門)城郭公園付近の城壁

→ 28p



刻字城石とは城郭の石に築城関連の文字が刻まれたものを指す。ナッサン(南山)区間であるトンデムン城郭公園入口には城壁を整備していた時に発見された刻字城石が集められている。初期(テジョ(太祖)・セジョン(世宗))の刻字城石には、主に区間と築城担当の郡県名が刻まれているのに対し、朝鮮中期以降のものには、監督官・責任技術者などの名前と役職が明記されている。

漢陽都城の壮大さが感じられる
ナッサンカトリック大学裏通り

→ 26p



都城に沿ってできた巡城道はほとんどが城内に造成されているため、肩の高さほどの女牆だけを見めながら歩くことになる。しかし、ナッサン区間の巡城道は城外に整備されているので、訪問者は城外の道を歩きながらハニヤン都城の壮大さと頑丈さを感じることができる。

テジョの時代の築城方法がわかる
ナムサン(南山)東側の木製階段路

→ 34p



テジョの時代の城壁は、築城から約600年が経っているにもかかわらず、当時の姿が保持されている。特にナムサンの東尾根に沿って造成された木製の階段路のそばは、テジョの時代に築かれた城壁が一番よく見えるスポットである。

セジョンの時代の築城方法が
わかるチャンチュン(鍾忠)体育館裏通り

→ 34p



チャンチュン体育館裏通りはセジョンの時代にトウモロコシの形に削った石を積み上げた城壁が残されている区間である。ここでは幾つかの刻字城石が見られるが、千字文の「生」の字(42番目の字)と、千字文「峴」の字(47番目の字)が刻まれた刻字城石も残されている。

漢陽都城の美しさが醸し出される名所

スンニエムン(崇礼門)とビル街との調和街の
中に佇み、より親しみを感じるハニヤン都城

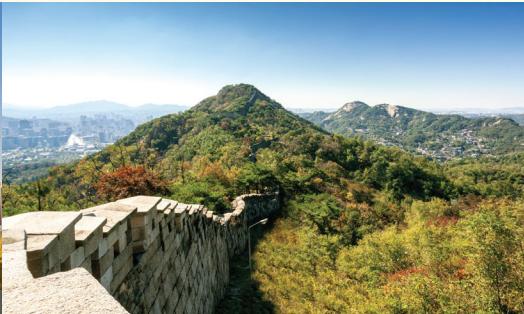
→ 38p



内四山の尾根に沿って連なり平地まで続くハニヤン都城は、ソウル都心のビル街とも自然に調和されている。ソウル市民がいつでも気軽に足を運べる都心の文化遺産である。写真は2008年に焼失したが、2013年に復元されたスンニエムンと左右の城壁の姿である。

山勢に沿って連なる絶景
ペガク(白岳)の稜線に沿って起伏しながら自然の一部となったハニヤン都城

→ 18p



山の稜線に沿って起伏しながら続くハニヤン都城の姿は荘厳である。ペガクサンとイヌアンサン(仁王山)の尾根に沿って無限に繰り広げられるハニヤン都城は自然の一部となっている。写真はペガク(白岳)曲城から眺めたハニヤン都城の姿である。

都市と自然との調和
人口1千万人の都市、ソウルを包み込む
ハニヤン都城

→ 44p



イヌアンサン曲城の周辺から見下ろすと、イヌアンサンの裾に沿って伸びるハニヤン都城がトニムン(敦義門)とスンニエムンを過ぎてモンミョクサン(木覓山)へ繋がっていたかつての姿が思い描ける。写真は新しく整備されたイヌアンサン西裾のハニヤン都城の姿である。

ナッサンから眺める夜景
味わい深く情緒ある都市の夜景を作りだす
漢陽都城

→ 28p



ナッサン区間は城壁に沿って照明が整備されているため、夜の散策が気軽に楽しめる。この区間の道を辿ってナッサンの山頂まで登ると視野が一面広がり、ソウルの夜景がパノラマのように繰り広げられる。写真はナッサンの頂上から見た都城周辺の夜景である。



ペガク(白岳)区間

区段 チャンイムン(彰義門) → ヘファムン(惠化門)
距離 4.7km 所需時間 約3時間

チャンイムンからペガクサンを超えてファムンに至る区間である。ペガク(白岳・北岳山、342m)は昔のソウルの主山で内四山の中で最も高く、コングクサン(拱極山)、ミヨナク(面岳)とも呼ばれ、山の姿は「五分咲きの牡丹」に例えられるほど美しい。ハニヤン(漢陽)都城はペガクサンを起点に築造された。1968年1・21事態以後、約40年近く立ち入りが制限されていたが、2007年から市民に開放された。

● 開放時間：毎週月曜日休み、月曜日が祝日の場合は火曜日休み
夏季(3月～10月) 09:00～16:00、冬季(11月～2月) 10:00～15:00

● 注意事項：チャンイムン(彰義門)・スクチョンムン(肅靖門)・マルバウイ案内所を入場する際は必ず身分証明書を持参すること。





モバイルアプリ
へアクセス



ペガク(白岳)区間 1

区間 チャンイムン(彰義門) → ペガク(白岳)曲城

距離 1.7km 所要時間 約1時間20分所要

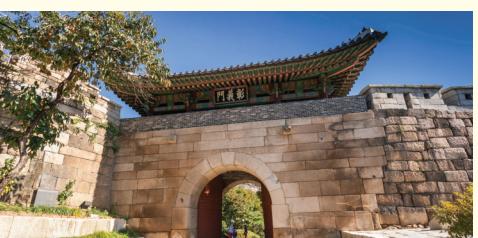
① 注意事項：一部の地域では写真撮影が制限されることがあり、身分証明書を必ず持参すること。

(身分証明書提示区間：チャンイムン・スクチョンムン・マルバウイ案内所)

② 交通案内：[彰義門] 3 キョンボックン駅3番出口 → 支線バス7212番・1020番・7022番 → 「チャハムンゴグ(紫霞門)」下車 → 徒歩2分



[ペガク(白岳)マル] 都城で最も高く、「ペガクサン、海拔342m」と書かれた標石が立っている。ペガクマルからはキョンボックン(景福宮)とセジョンロはもちろん、ハンガン(漢江)向かいの63ビルまで眺望できる。最初の築城当時は工事区間を97に分け、千字文の順に各区間の名前が付けられ、スタート区間は「天」、最終区間は「弔」となっていたが、ペガクマルは「天」の区間に該当する。



チャンイムンのもう一つの物語

虹霓天井の絵 チャンイムンの虹霓(虹のように半円の形をしている門)の前部には鳳凰が彫刻されており、天井には鳳凰が描かれている。よく見ると、鳳凰というより鶴の形状に近いが、チャンイムン外の地形がムカデに似ていることから、その天井である鶴を描いたと言い伝えられている。チャンイムンとヘファム(恵化門)の虹霓天井には鳳凰が、スンニエムン(崇礼門)とクアンヒムン(光熙門)には龍が描かれているが、スクチョンムン(崇靖門)には絵がない。

* 曲城から眺めるソウル(城北区)



[ソクバジョン(石坡亭)とソウル美術館] <有形文化財第26号> ソクバジョンは、チャンイムンの外、岩山中腹にあるソウル美術館の敷地内に佈んでいる。19世紀半ばに当時の権力者であったキム・フングン(金興根)が建てた家で、コジョン(高宗)即位後はソンソンデウォンゲン(興宣大院君)イ・ハウ(李显應)の別荘として使われた。ソクバ(石坡)とはイ・ハウの雅号である。元々七棟が建てられていて、現在残っているのは母屋、サランチ(主人の居間)、離れのみである。2012年8月に開館したソウル美術館は「黄牛」・「自画像(1955)」・「歓喜(1955)」などのイ・ジュンソブ(李仲燮)の作品19点をはじめ、パク・スグン(朴寿根)、チョン・ギヨンジヤ(千鏡子)、キム・ギチャン(金基昶)、オ・チギュン(吳均治)など、韓国近現代の巨匠画家の作品100点余りを所蔵している。



【暗門の外、巡城道】朝鮮時代の都城の内外には、兵士たちが巡回する巡城道があった。朝鮮後期には御営厅・禁衛營・訓練都監の三軍門がそれぞれ8つの区域に分け都城の周辺を巡回した。



【都城沿いのウォーキング】チャンイムン(彰義門) → チャンイムン(彰義門)案内所 → イルカ憩いの場 → ペガク(白岳)憩いの場 → ペガク(白岳)マル

→ 1・21事態の松 → チョンウンロ(青雲台) → アンムン(暗門) → ペガク(白岳)曲城(徒歩1時間20分)

【ウォーキングおすすめ区間】チ・ギュウシク(崔圭植)銅像 → ユン・ドンジュ(尹東柱)文学館 → ユグム(柳琴)瓦堂博物館

→ ソクバジョン(石坡亭)(ソウル美術館) → ファンギ(煥基)美術館 → チャンイムン(彰義門) (徒歩1時間)

ペガク(白岳)八角亭
복각팔각정モバイルアプリ
へアクセス

プクチョン(北村)韓屋村



ペガク(白岳)区間

区間 ペガク(白岳)曲城 → ワリヨン(臥龍)公園
距離 1.8km
所要時間 約1時間

① 注意事項：一部の地域では写真撮影が制限されることがあり、身分証明書を必ず持参すること。(チャンインムン・スクチョンムン・マルバウイ案内所)

② 交通案内：[スクチョンムン案内所] 4 ハンソンティープ駅6番出口 → 支線バス1111・2112番
→ 「ミョンス学校」下車 → 徒歩20分

[マルバウイ案内所] 1) 3 アングク駅2番出口 → マウルバス鍾路02番 → 「ソンギュングァン(成均館)大学校・後門」下車 → 徒歩20分
2) 5 クアンファムン駅2番出口 → マウルバス鍾路11番 → 「サムチヨン(三清)公園」下車 → 徒歩20分

[スクチョンムン(肅靖門)] スクチョンムンはハニヤン(漢陽)都城の北大門である。最初は肅靖門と名付けられていたが、後に肅靖門に改名された。現存する都城門のうち、左右両側に壁が繋がっているのは唯一スクチョンムンしかない。1976年に新たに門楼が建てられた。



✓ スクチョンムンのもう一つの物語

スクチョンムンが閉められていた理由は？ 東洋では、北は陰陽の「陰」、南は「陽」に当たるとされてきた。ソウルの地勢は北が高く南が低い。それに陽気より陰気が強いという説に基づき、スクチョンムンは普段閉めたままで、醜い干ばつの時だけ開けたとされる。これに関しては、「スクチョンムンを開けておくと、チャンアン(長安、ソウル)の女性が道楽に陥りかねない」という俗説があったため、「常時扉を閉めて置くようにした」とも言われる。イ・ギュギヨン(李圭景)が書いた「五洲衍文長箋散稿」によると、「マジュ(楊州)ブックサン(北漢山)に通じるスクチョンムンも閉めたままになっていて使われていない。それがいつから使われていないかははっきりわからないが、伝えるところでは、この城門を開けておくと、城の中に「桑中閑間之風」が吹き荒れるとき、それを防ぐため」と記されている。

「桑中閑間之風」とは、「周代宣惠王の時代の淫らな貴族たちが桑畑で密会した」と書かれた『時頃』の一節に由来する文句で、婦女子の風紀紊乱行為を意味する。ソンブクドン(城北洞)にソンジャムダン(先蚕壇)があったことから、スクチョンムンの外には実際の桑の畑があったと推測される。

[マルバウイ案内所と優秀景観眺望名所] マルバウイとはサムチヨン(三清)公園の中にある岩のこと、この名前の由来については諸説がある。ペガクの端にある岩という意味で末(マル)の岩(バウイ)と名付けられたという説や、馬に乗ってきた人々が山に登る前にこの岩に馬をつなぎ止めたことから馬(マル)バウイと名付けられたという説などがあるが、後者の方方が有力視される。東尾根に沿ってペガクに登る途中で急傾斜になる地点を指す。ここからはソンブクグ(城北区)方面の眺め、チヨンノグ(鍾路区)方面の眺めがよく、優秀景観眺望名所となっている。優秀景観眺望名所は、スクチョンムン(肅靖門)案内所、マルバウイ案内所、サムチヨン(三清)公園、ワリヨン(臥龍)公園への道が分かれる分岐点なので、案内標識をよく確認する必要がある。



[ブクチョン(北村)韓屋村] ブクチョンとはキヨンボックン(景福宮)とチャンドックン(昌德宮)の間に位置する村の昔の名称で、現在のチェドン(斎洞)、カフェドン(嘉会洞)、ケドン(桂洞)、サムチヨンドン(三清洞)一帯を指す。古くから宗親や高官が多数住んでいたため屋敷が多くあった。現在残っている朝鮮末期の建築物にはアングクドン(安国洞)にあるエン・ボソン(尹潽善)の家唯一で、ハン・サンニヨン(韓相龍)の家、キム・ソンス(金性洙)の家など1910~20年代に建てられた建物も幾棟か残っているものの、ほとんどの韓屋はすべて1930年以降に建てられた都市型の韓屋である。



[都城沿いのウォーキング] ペガク(白岳)曲城 → ペガク(白岳)チョッテバウイ → スクチョンムン(肅靖門) → マルバウイ案内所 → 優秀景観眺望名所 → ワリヨン(臥龍)公園 (徒歩1時間)

[ウォーキングおすすめ区間] ③ アングク駅2番出口 → ブクチョン(北村)文化センタ → ハン・サンス(韓尚洙)刺繡博物館 → ブクチョン生活史博物館 → ソウル市立チョンドク(正読)図書館 → アングクドン(安国洞)エン・ボソン(尹潽善)の家 → 国立現代美術館・ソウル館 → サムチヨン(三清)公園 (徒歩1時間30分)

[ウォーキングおすすめ区間] ④ ハンソンティープ駅6番出口 → ミョンス学校 → ソンブク(城北)友情の公園 → サムチヨンガク(三清閣) → スクチョンムン(肅靖門)案内所 → スクチョンムン (徒歩40分)



ペガク(白岳)区間 3

① 注意事項：シムジャン(尋牛莊)とブクチョン村方面は民家地域に当たり、大声を出さないように注意すること。

② 交通案内：[ブクチョン村/ワリヨン公園] ④ ハンソンディック駅6番出口 ➔ マウルバス城北03番
➡ 「バルガクチョン(八角亭)」で下車 ➔ 徒歩5分

[ヘファム] ④ ハンソンディック駅5番出口 ➔ 徒歩5分

[ブクチョン村] ワリヨン公園の脇から都城内側の道に沿って歩くと、ソンブクドン(城北洞)に抜けるアンムン(暗門)が現れるが、ブクチョン村はアンムンの外に広がる絵のような町一帯を指す。ブクチョン村にはかつてマンヘハン・ヨンウン(萬海韓龍雲)先生が住んでいた「シムジャン(尋牛莊)」と「ソンブクドン(城北洞)」の作家として有名なキム・グアンソプ(金珖燮)詩人が住んでいた家がある。城壁の下には約500世帯の家がたて込んでおり、1960～70年代のソウルの趣を感じができるので、ドラマや映画のロケ地としても人気である。



[ソンブクドン(城北洞)チエ・スヌ(崔淳雨)家屋]

登録文化財第268号 国立中央博物館長を務めたヘゴク・チエ・スヌ(岑谷崔淳雨)先生(1916～1984)が住んでいた家で、「L字」型の母屋と離れが向かい合う「口字」型の構造となっており、1930年代にソウル地域で流行った韓屋作りである。

[ヘファム(惠化門)] ハニヤン(漢陽)都城の東北門である。創建当時はホンファムン(弘化門)という名称だったが、チャンギヨングン(昌慶宮)正門の名前がホンファムンになったことで、チュンジョン(宗祖)6年(1511)にヘファムンに改称した。当初は門楼がなかったが、ヨンジョン(英祖)時に建てられた。門楼は1928年に、虹霓は1938年に取り壊されたが、1994年に元の位置より北側に建て直された。



*ヘファムの古写真 | 国立中央博物館所蔵

[マンヘハン・ヨンウン(萬海 韓龍雲)のシムジャン(尋牛莊)]

記念物第7号 ブクチョン村のすぐ下にマンヘ・ハン・ヨンウン先生が晩年を過ごしたシムジャンがある。ソンブクドンの中でも最も奥まった位置にあり、狭い路地をしばらく歩かないとなかなか現れない。朝鮮総督府と背を向けた建物にしたというハン・ヨンウン先生の意思に従って北向きに建てたと伝わる。

[サンホ イ・テジュン(尚虚李泰俊の家屋)] (民俗文化財第11号)

小説家イ・テジュン(李泰俊)(1904～?)が1933年から10年間過ごしながら、『ファン・ジニ(黃真伊)』、『王子ホドン(好童)』などを執筆した家で、彼が使った古家具・小物・本などは現在も家中に残されている。イ・テジュンはこの家の堂号を「文人たちが集う山の家」という意味で「スヨンサンバン(寿観山房)」と名付けた。離れのうち、1棟は伝統喫茶店として運営されている。



[ソウル漢陽都城の跡] キョンシン(微新高等学校)の裏道からヘファムンに続く路地は城壁がひどく破損され、痕跡だけが所々残っている。キョンシン高等学校の裏門は城壁が学校の塀として使われている。キョンシン中・高校を通り過ぎると、「L字」の形に折れた住宅の塀の下に城石が土台に使われていることがわかる。ヘソン(惠聖)教会階段の両側にも城壁の一部が残っている。途切れながらも続くハニヤン都城の城壁は途中で100mほど跡形も見えなくなるが、トゥサン(斗山)ヴィラ建物の前で再び現れ、旧ソウル市長公館の塀まで150mほど続く。



[都城沿いのウォーキング] ワリヨン(臥龍)公園 ➔ アンムン(暗門) ➔ ソウル科学高校 ➔ キョンシン高等学校 ➔ ヘソン(惠聖)教会 ➔ トゥサン(斗山)ビル ➔ 旧ソウル市長公館 ➔ ヘファムン(惠化門) (徒歩40分)

[ウォーキングおすすめ区間1] ワリヨン(臥龍)公園 ➔ アンムン(暗門) ➔ ブクチョン村 ➔ マンヘハン・ヨンウン(萬海 韓龍雲)のシムジャン(尋牛莊) ➔ ソンブクドン(城北洞)イ・ジョンソク(李鍾奭)の別荘 ➔ カンソン(澗松)美術館 ➔ ソンジャムダンジ(先蚕壇址)

[ウォーキングおすすめ区間2] ソウル科学高校 ➔ ミョンニュンドン(明倫洞) チャン・ミョン(張勉)の家屋 ➔ ハン・ムスク(韓戊淑)文学館 ➔ 現代詩博物館 ➔ 藢草生活史博物館 ➔ ヘファムン(惠化洞)ロータリー ➔ ヘファムン(惠化門) (徒歩30分)



ナッサン区間 フンインジムン区間

区間 ヘファムン(惠化門)→フンインジムン(興仁之門)
距離 2.1km 所要時間 約1時間

区間 フンインジムン(興仁之門)→チャンチュン(撫忠)体育館
距離 1.8km 所要時間 約1時間

ヘファムン(惠化門)からナッサン(駱山)を過ぎてフンインジムンに至る区間である。ナッサン(124m)はソウルの左青龍に当たる山で、内四山の中で最も低い。山の形が駱駝に似ていることからナクタサン(駱駝山)またはタラクサン(駱駝山)と呼ばれる。ナッサン区間は傾斜が緩やかなのでゆっくり散策するように歩いてもよいコースである。カトリック大学の裏道は築造時期別の城石形状の変化が観察できる。

●開放時間：24時間

●注意事項：チャンスマウル(長寿村)とイファマウル(梨花村)を通る時は住民の迷惑にならないように気を付けること。





① 注意事項：城壁の上に登ったり寄りかかったりすることは大変危険であり、城壁を壊す恐れがあるのでご注意ください。

② 交通案内：[ナッサン入口] 4 ハンソンディック駅4番出口 → 徒歩3分 / 4 ヘファ駅1番出口 → 徒歩5分
[ナッサン公園の頂上] 4 ヘファ駅2番出口 → 徒歩15分

[チャンスマウル(長寿村)] ナッサン公園の東南側の壁を挟んでいる小さな町で、韓国戦争後にできた低所得者地域に由来し、60歳以上の高齢者の居住人口が多いと命名された村である。ニュータウン予定地となっていたが、住民投票によりニュータウン再開発計画が中断され、村の再生事業を行うことになった。その後、住民自らが家を改装したり、路地を整備したりして、現在のようにアットホームで小奇麗な町に生まれ変わり、住民参加型の町再生事業の成功事例として挙げられている。



✓ チャンスマウルのもう一つの物語

村再生事業 住民が町の特徴と歴史的価値を活かしながら、古い住宅や周辺環境を改善する事業で、町全体の建物を撤去してマンションに建て替える従来の再開発方法とは異なる。ブクチョン村、チャンスマウル、イファマウル(梨花村)などは村再生プロジェクトによって生まれ変わつつある。

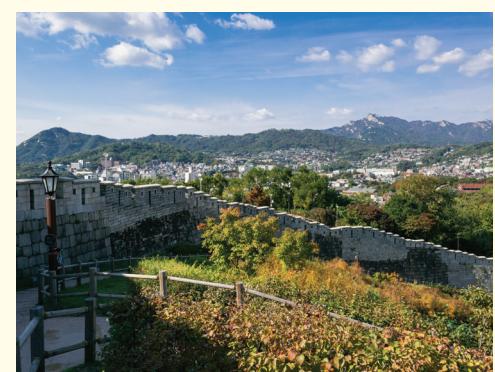
都城、これだけは知つておこう

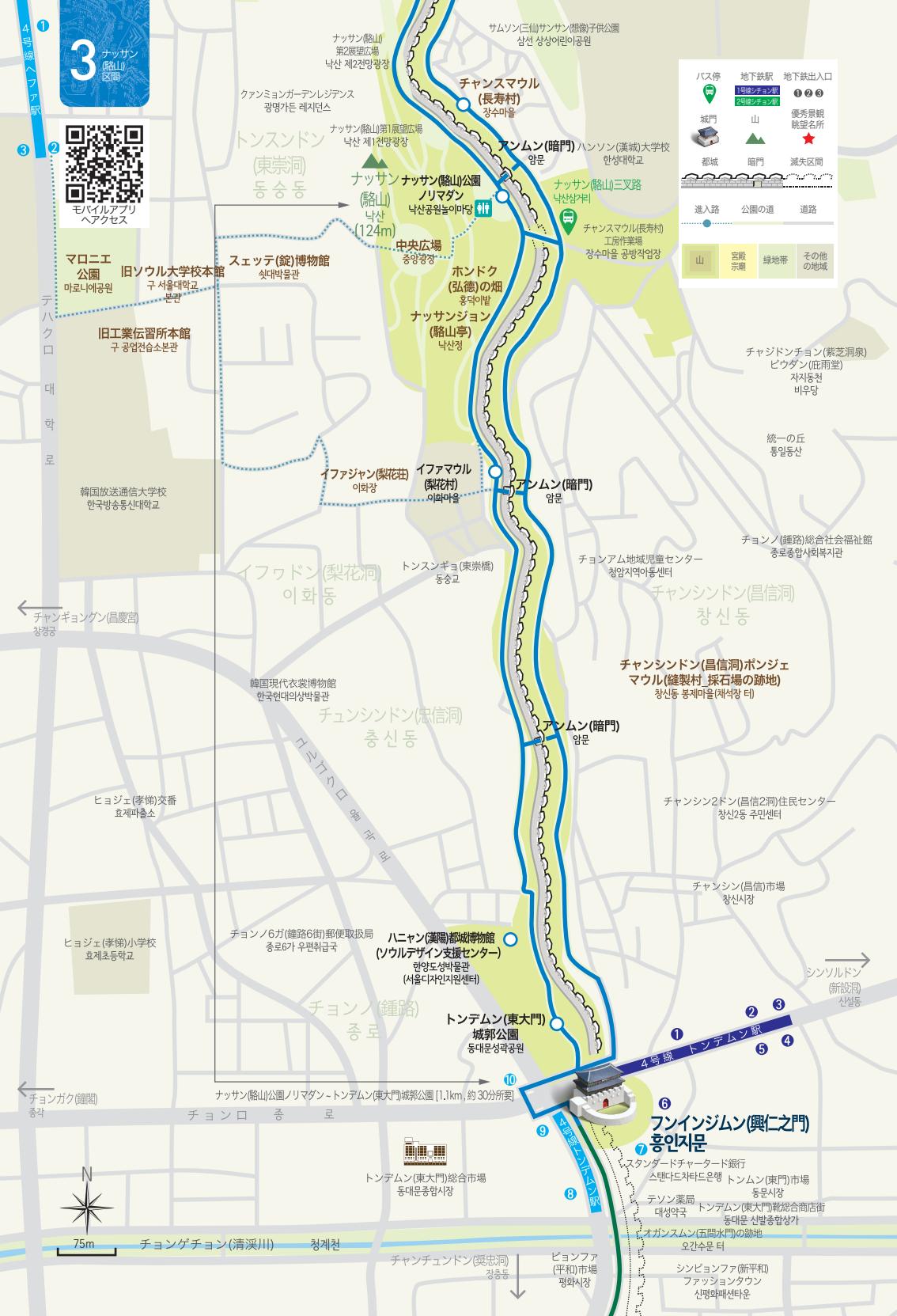
[ソウル(漢陽)都城の壮大さが感じられるスポット] 都城に沿って歩く道はほとんどが城壁の内側に作られているため、肩の高さ程度の女牆しか見えないことが多いが、ナッサン区間は全区間が城外に道が整備されている(もちろん、アンムン(暗門)を通じて城の中に入ることもできる)。特にカトリック大学校沿いの城壁道を歩いてみると、ハニヤン都城の壮大さと頑丈さが一目瞭然にわかる。また、セジョン(世宗)・スクチヨン(康宗)・スンジョン(純祖)の時代の築城方法を比較することもできる。

巡城道案内

[都城沿いのウォーキング] ヘフムン(恵化門) → 4 ハンソンディック駅4番出口 → 階段 → カトリック大学校の裏道
→ チャンスマウル(長寿村) → アンムン(暗門) → ナッサン(駿山)公園ノリマダン(徒歩30分)
[ウォーキングおすすめ区間] 4 ヘファ駅1番出口 → サンミョン(祥明)アートホール → テハンノ ミュージカルセンター
→ イルソク(一石)記念館 → ナッサン第3展望広場 → ナッサン第2展望広場
→ ナッサン第1展望広場 → ナッサン公園ノリマダン(徒歩30分)

[チャジドンチョン(紫芝洞泉)とピウダム(庇雨堂)] チャジドンチョンはタンジョン(端宗)妃チヨンスン(定順皇后)であるソン(宋)氏にまつわる遺跡である。チャジドンチョンとは白い布を洗うと自然に紫色に染まることから名付けられた。岩には「紫芝洞泉」と刻まれており、その横に井戸の跡地が残っている。タンジョンの廟後、庶民になったソン氏は、トンデムン(東大門)の外に小屋を建て暮らしながら、チャジドンチョンで染色することを生業にしながら生計を立てたと伝えられる。チヨンスン王がタンジョンの冥福を祈りながら暮らしていた家をチヨンオボン(清業院)と言うが、現在チヨンニヨンサ(青龍寺)の裏庭には、ヨンジョン(英祖)が建てたチヨンオボン旧墓碑が残っている。タンジョン妃であるソン氏にまつわる遺跡はその他にもトンマンボン(東望峰)やヨイン(女人)市場などがある。





ナッサン(駱山)区間 2

区間 ナッサン(駱山)公園ノリマダン→フンインジムン(興仁之門)

距離 1.1km

所要時間 約30分

① 注意事項：イファマウル(梨花村)を通る時は、住民の迷惑にならないように注意すること。

* トンデムン城郭公園の中にあるソウルデザイン支援センター(1~3階)には漢陽都城博物館がある。

② 交通案内：[ナッサン公園の頂上] 1 4 トンデムン駅5番出口 → マウルバス鍾路03番 → 「ナッサン(駿山)三叉路」下車

[ナッサン公園/イファマウル] 4 ヘファ駅2番出口 → 徒歩20分

[トンデムン城郭公園] 1 4 トンデムン駅10番出口 → 徒歩2分

[旧工業伝習所本館] <史跡第279号>「旧工業伝習所本館」として知られているが、1912年に新築された中央試験所庁舎である。現在は韓国放送通信大学校の歴史文書館として使われている。

[イファヤン(梨花荘)] <史跡第497号>イ・スンマン(李承晚)元大統領がアメリカから帰国した後、大統領に就任する(1947~1948)まで私邸として使っていた家で、別棟はチョガクタン(絹閣堂)と呼ばれ大韓民国初代内閣を構成した場所でもある。現在はイ・スンマン元大統領の養子夫妻が住んでおり、イ・スンマン大統領記念館として使われている。現在工事が行われているため2015年まで観覧予約は不可となっている。



[チャンシンドン(昌信洞)ポンジエマウル (縫製村_採石場の跡地)]

[マロニ工公園] ソウル大学の文学校・理学部と法学校が「アナク(冠岳)キャンパスに移転された後、その跡地に造成された公園である。公園名は1926年にキヨンソン(京城)帝国大学を建てた際に街路樹としてマロニ工の木を植えたことに由来している。公園右側にある赤いレンガ造りの建物は、1930年代の初めに建てられ、1945年以降はソウル大学本館として使われていたが、ソウル大学校が「アナクキャンバスに移転されてからは、文化芸術振興院の庁舎となった。旧ソウル大学校・トンスンドン(東崇洞)キャンパスの建物の中で唯一残っている建物である。



都城、 これだけ は知って おこう

[工事実名制と刻字城石] 築城に関する文字が刻まれた石を刻字城石(刻字城石)と言うが、ハニヤン都城の全区間のうち、トンデムン城郭公園付近で最も多く見られる。城郭を整備する過程で発見された刻字城石を集めておいたからである。テジョ(太祖)・セジョン(世宗)の時代の刻字城石には、区間名と区間別築城担当の郡県名が、朝鮮中期以降の刻字城石には監督者と責任技術者の名前、日付などが印記されている。右の写真の刻字城石はナッサン区間が終わる位置の都城外側で見られる。

[都城沿いのウォーキング] ナッサン(駿山)公園ノリマダン→イファマウル(梨花村)→漢陽都城博物館(ソウルデザイン支援センター)

→ トンデムン(東大門)城郭公園→フンインジムン(徒歩30分)

[ウォーキングおすすめ区間] 4 ヘファ駅2番出口 → マロニ工公園 → 旧ソウル大学校本館 → 旧工業伝習所本館

→ スエッテ(銅)博物館 → イファヤン(梨花荘) → イファマウル(梨花村)

→ ホンドク(弘德)の烟・ナッサンジョン(駿山亭) → ナッサン公園ノリマダン(徒歩40分)

巡城道 案内



① 注意事項：クアンヒムン(光熙門)からチャンチュン体育館方面への道は民家地域に当たり、民家の迷惑にならないようにすること。

② 交通案内：[フンインジムン] 1 4 トンデムン駅6・7番出口 ➔ 徒歩1分

[トンデムン(東大門)歴史文化公園] 1 4 トンデムン駅7番出口 ➔ 徒歩10分

2 4 5 トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅2番出口 ➔ 徒歩2分

[チャンチュン(獎忠)体育館] 3 トンディック駅5番出口 ➔ 徒歩2分

[フンインジムン(興仁之門)] 宝物第1号ハニヤン(漢陽)都城の東大門である。現在のフンインジムンはコジョン(高宗)6年(1869)に再建されたもので、朝鮮後期の建築様式がよく表れており、宝物第1号に指定されている。ソウルは西高東低の地勢であるため、軍事的にはトンデムン(東大門)が最も不利だった。トンデムンの外側に瓮城をもう一つ築いたのもそのためである。1907年、左右の城壁が取り壊され、現在の姿になった。



[トンデムン(東大門)市場] 1905年に韓国初の民間都市常設市場として開場したクアンジャン(広蔵)市場が嚆矢である。韓國戦争以降、トンデムン一帯の商圈はクアンジャン市場を起点に東へ広がり、現在ではチョンゲチョン(清溪川)沿いにクアンジャン市場・パンサン(芳山)市場・トンデムン総合市場・ピョンファ(平和)市場などが立ち並ぶ。この巨大な市場一帯は世界的な衣類、ファッショングラントの中心地である。近くの国立医療センターの敷地は元々朝鮮時代の訓練センターがあった場所である。市場の向かい側にはキリル文字の看板が並ぶ中央アジアタウンが形成されている。ロシア・ウズベキスタン・モンゴル・カザフスタンなどから来た人々がこの一帯に住み着いて造成された通りである。

[オガヌムン(五間水門)の跡地とイガヌムン(二間水門)] <史跡第461号オガヌムンの跡地> フンインジムンとクアンヒムンの間にはかつてオガヌムンとイガヌムンがあった。この付近はソウルで最も地形が低いため、内四山から流れ落ちる水はすべてここを通って都城の外へ流れていった。城壁とチョンゲチョンが交差する場所には水門が続いていた。トンデムン運動場の観客席の下に埋っていたイガヌムンは円形に近い姿が残っているが、オガヌムンは跡形もなくなってしまっており、かつてオガヌムンがあった場所が史跡に指定されているだけである。



[トンデムン歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)]

昔のトンデムン運動場の跡地に造成された公園で、朝鮮後期には訓練都監の別宮である下都監と火薬製造官署である焰硝院があった場所である。1925年、日本はここにキヨンソン(京城)運動場を建設したが、城壁を利用して観客席を作った。解放後、キヨンソン運動場はソウル運動場に改称され、その後の「88オリンピック(第24回ソウルオリンピック)」以後、トンデムン運動場に改名された。2007年、近現代の韓国スポーツの中心地であった同運動場が取り壊されたが、当時の解体作業の過程で、地下に埋もれていた城壁の一部とイガヌムン(二間水門、ナムサン(南山)から流れる水が都城の外に抜けられるように作った二つの水門)、雉城(城壁の一部を突出させて、敵から守るために施設)、下都監と推定される建物の遺構などが大量に出土した。現在のイガヌムンは元の場所にあるが、トンデムンデザインプラザ(DDP)の場所にあった建物の遺構は公園の中に移された。その場所で出土した遺物はトンデムン歴史文化公園内のトンデムン歴史館1398で見ることができる。

[クアンヒムン(光熙門)] ハニヤン都城の東南門で、シグムン(屍口門)またはスグムン(水口門)と呼ばれていた。日本統治時代に一部が崩れ、1960年代のトエゲロ工事の際に半分ほど取り壊されたが、1975年に元の位置から南に15m離れた現位置に再建された。

✓ クアンヒムンのもう一つの物語

クアンヒムン外の村、シンダンドン(新堂洞)の由来 クアンヒムンは遺体が運ばれていた屍口門である。一般百姓にも出入りを嫌がられた門であったが、王の身分で同門を利用した王がいる。インジョ(仁祖)は丙子胡乱当時、清軍が予想より早く都城に迫ってきたため、クアンヒムンを通り抜けてナムハン(南漢)山城に避難したのである。同門の外は路祭を執り行う場所だったので巫女たちが多く、シンダンドン(神堂里)と呼ばれていたが、甲午改革以後、シンダンドン(新堂里)と改称された。



[チャンチュンドン(獎忠洞)住宅地域] クアンヒムン城壁に沿ってチャンチュンドン住宅街に入ると、ハニヤン都城は再び姿を消す。1930年代に東洋拓殖株式会社がこの一帯に文化住宅団地を造成した際に、ハニヤン都城のかなりの部分を取り壊した上、解放後、1960~70年代も新築が建てられる際に城壁が破壊されたためである。現在、この当たりの城石は住宅の塀や土台として使われている。



[都城沿いのウォーキング] フンインジムン(興仁之門) ➔ オガヌムン(五間水門)の跡地 ➔ イガヌムン(二間水門) ➔ トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地) ➔ トンデムン歴史館1398 ➔ クアンヒムン(光熙門) ➔ ベッククリーニング店 ➔ カトリック・シンダンドン(新堂洞)教会 ➔ チャンチュン(獎忠)体育館 [徒歩1時間]

5



ナムサン(南山、木覓山)区間1

区間 チャンチュン(奨忠)体育館 → ナムサン(南山)公園バス停
距離 2.6km 所要時間 約1時間30分

区間情報: ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)のイベントスケジュールを事前に調べておくと、様々なイベントを楽しむことができる。

交通案内: [ナムサンコル・ハノクマウル] ③ ④ チュンムロ駅4番出口 → 徒歩1分

[チャンチュンダン(奨忠壇)公園] ③ トンディック駅6番出口 → 徒歩1分

[チャンチュン体育館] ③ トンディック駅5番出口 → 徒歩2分

[チャンチュンダン(奨忠壇)碑] <有形文化財第1号> チャンチュンダンは1900年に、乙未事変(1895年)により國に殉じた將兵を祭るための施設として作られたが、翌年の開港以降、殉國者すべてを祀る国立顯忠施設に格上げされた。日本帝国は1907年、チャンチュンダンでの祭祀を廃止し、3・1運動後はその一帯を公園に作り直した。1932年にはチャンチュンダンの向かい、現在のソウル新羅ホテルの場所には伊藤博文を称えるパンムンサ(博文寺)が建立された。



[スピヨギヨ(水標橋)] <有形文化財第18号> 朝鮮セジョン(世宗)2年(1420)に建てられた橋で、最初の名前はマジョンギヨ(馬塵橋)だったが、セジョン23年(1441)に橋の横に水深を計る水標が設置されてからスピヨギヨに改称された。ヨンジヨ(英祖)36年(1760)の時代に橋が修理され橋脚には「庚辰地平」いう四文字が刻まれたが、この文字は小川を作る河床の基準点とされた。「庚辰地平」とは庚辰年に河川の底を平原に整備したという意味である。スピヨギヨは1959年にチョンゲチョン(清溪川)の覆蓋工事の際にチャンチュンダン公園に移転された。



[国立劇場] 1973年チャンチュンダン(奨忠洞)に建設された国立公演・芸術総合劇場である。1974年の光復節慶祝行事の際にユク・ヨンス(陸英修)夫人が狙撃された場所でもある。ヘオルム劇場(大劇場)、タロルム劇場(小劇場)、ピヨロルム劇場、ハヌル劇場(円形野外ステージ)などがある。



[ソウル中心点] ソウルの真ん中はどこだろうか。衛星航法装置(GPS)で測定した結果、ソウルの地理的な中心点はナムサンの頂上部にあることが確認された。この場所にはソウルの中心点であることを示す造形物が設置されている。

[テジヨ(太祖)王時代に築造された初期の城壁をじっくり見たい場合] テジヨ王時代の城壁は、築城からすでに600年以上経っているが、未だに築城当時の姿が保持されている城壁がかなり残っている。特にナムサンの東尾根に沿って造成された木製階段路の横にはテジヨ王時代の城壁が長く続く。



[都城沿いのウォーキング] チャンチュン(奨忠)体育館 → チャンチュン体育館裏通り(都城の外・内側の道) → 優秀景観眺望名所(ヨンサング(龍山区)方面) → パンヤンツリークラブ&スパソウル → 国立劇場 → 木製階段路 → ナムサン公園バス停(徒歩1時間30分)

[ウォーキングおすすめ区間1] ③ ④ チュンムロ駅4番出口 → ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村) → ソウル定都600年のタイムカプセル → ナムサン公園(徒歩1時間)

[ウォーキングおすすめ区間2] ③ トンディック駅6番出口 → チャンチュンダン公園 → スピヨギヨ → ソッコジョン → 国立劇場 → ナムサン公園(徒歩1時間)

[ウォーキングおすすめ区間3] ⑥ ハンガジン駅1番出口 → ナムサン野生花公園 → ナムサン展示館 → ナムサン野外植物園 → ナムサン生態保護区域 → ナムサン公園(徒歩1時間)



5

モバイルアプリ
へアクセス

ナムサン(南山、木覓山)区間 2

区間 ナムサン(南山)公園バス停→ペクボム(白凡)広場

距離 1.6km 所要時間 1時間30分

⌚ 開放時間: Nソウルタワー展望台利用時間 - 月曜日～金曜日/日曜日10:00～23:00 | 土曜日 10:00～24:00

※Nソウルタワー展望台2階(T2)ではソウル漢陽都城に関する様々な物語に出会える。

ナムサンロープウェイ運行時間 - 上午前10時～午後11時(金・土・休日の前日は、状況に応じて1時間延長運行)

🕒 交通案内: [ナムサン公園バス停] ナムサン循環バス02・03・05番, 「ナムサンゴンウォン(南山公園)」下車

[ソウル市立ナムサン図書館] ナムサン循環バス02・03・05番, 「ナムサンドソグアン(南山図書館)」下車

[ペクボム広場] ④ フェヒョン駅4番出口 → 徒歩5分 / ④ ミョンドン駅3番出口 → 徒歩10分

[Nソウルタワー] ナムサンの頂上に聳え立つ展望塔で海拔480mの高さから360度回転しながら、ソウル市全域を一望できるスポットである。1969年に首都圏のTVやラジオの電波を送出する総合電波塔として建てられたが、1980年から一般人に公開された。それ以後、日々的な補修工事を終え、2005年に複合文化空間であるNソウルタワーとしてリニューアルオープンした。展望台2階ではハニヤン都城に関連する様々な物語に出会える。



[モンミョクサン(木覓山)烽燧台の跡地] <記念物第13号> モンミョクサン烽燧台は朝鮮時代、全国八道で上げる烽燧(烽火)の終着点であった。烽燧とは昼は煙で、夜は明かりに辺境の情勢を知らせる視覚信号を指す。平時には1つの烽燧を上げ、変乱が起きた場合は緊急度に応じて、2つから5つまで上げた。モンミョクサン烽燧台はセジョン(世宗)5年(1423)に設置され、1895年までの約500年間使われた。現在の烽燧台は1993年に推定復元したものである。



[ナムサン(南山)八角亭と国師堂の跡地] ナムサン八角亭の場所には元々朝鮮時代の国師堂があった。朝鮮時代のテジョ(太祖)王はナムサンを木覓大王として考え、ナムサンでは國泰民安を祈願する国の祭祀だけ行うようにした。1925年に日本帝国がナムサンに朝鮮神宮を建てた際にイヌアサン(仁王山)の麓に移転された。第1共和国の時に国師堂の元の場所にタブゴル公園のバルガクチヨンのようなあずま屋を建ててイ・スマン(李承晚)大統領の雅号を取り「ウナムジョン(雲亭)」と名付けたが、4・19革命以降、バルガクチヨンに改称された。



都城、
これだけ
は知って
おこう

[ナムサン(南山)・フェヒョン(会賢)裾の遺構発掘現場] ナムサンのアン・ジュンゲン(安重根)義士記念館周辺は1925年に日本帝国が朝鮮神宮を建てた際に城郭が取り壊された場所である。ソウル市は2013年ハニヤン都城保存管理事業の一環として、この一帯の発掘作業を開始したが、発掘の結果、地面に埋もれていた城の基底部が非常に良好な状態で姿を現した。発掘遺構は朝鮮時代の築城技術と石材の変遷過程を示す貴重な資料になる。

[ナムサン(南山)に独立運動家の銅像が多い理由は?] ナムサンのペクボム(白凡)広場周辺には、ペクボム・キム・グ(金九)先生の銅像、ソンジェ・イ・シヨン(省斎李始容)先生の銅像、アン・ジュンゲン義士記念館と銅像など、抗日独立運動家を称える記念碑が多い。ここは日帝強占期に朝鮮神宮があった場所で、日本の植民地支配の象徴を抗日独立運動の象徴として置換えたのである。



巡城道
案内

[都城沿いのウォーキング] ナムサン(南山)公園バス停→Nソウルタワー→ナムサン八角亭→モンミョクサン(木覓山)烽燧台の跡地→ナムサンロープウェイ乗り場→チャムドゥポン(蚕頭峰)フォトアイランド

→ナムサン・フェヒョン(会賢)裾の遺構発掘現場→アン・ジュンゲン(安重根)義士記念館

→ペクボム(白凡)広場 (徒歩1時間30分)

[ウォーキングおすすめ区間] ④ ミョンドン駅8番出口→ミョンドン(明洞)通り→ミョンドン芸術劇場→ミョンドン・ソンドン(明洞聖堂)→韓国銀行本館→ナムテムン(南大门)市場→ペクボム(白凡)広場 (徒歩1時間)



スンニエムン(崇礼門)区間

区間 ベクポム(白凡)広場 → トニムン(敦義門)の跡地

距離 1.8km 所要時間 約1時間

开放時間: スンニエムン観覧時間 - 年中常設(月曜日休み)時間: 09:00~18:00

夏季: 09:00~18:30(6月~8月) / 冬季: 09:00~17:30(11月~2月)

交通案内: [チョンドンギル] ① ② シジョン駅10番出口 → 徒歩5分 / [トッスン(德寿宮)] ① ② シジョン駅2番出口 → 徒歩1分

[スンニエムン] 京義 空港 ① ④ ソウル駅4番出口 → 徒歩5分 / ナムデムン(南大門)市場 ④ フェヒョン駅5番出口 → 徒歩1分

*点線になっているイファ(梨花)女子高等学校内の巡城道は解説者プログラムの場合のみ進入可能である。

[スンニエムン(崇礼門)] <国宝第1号>ハニヤン(漢陽)都城の南大門であり、正門である。1395年に建て始め、1398年に完成したが、1448年と1479年に2回改築された。1907年、交通の妨げになるという理由により、左右の城壁が取り壊されてからは文化財として保存してきた。ソウルで最も古い建物であったが、2008年2月の火災で木造2階の門楼が毀損され、2013年5月に修復された。修復時にスンニエムン左右の83m区間に城壁が繋げられた。



ソイムン(昭義門)の跡地

ソイムンは恐怖の扉だった? ソイムンはカソニムンと同様、都城の外に遺体を送り出門として使われた。ソイムンは死刑囚を処刑場に連れていく際にも使われた。ソイムン外にある広い庭は朝鮮時代の死刑執行場であった。カトリック殉教者たちの多くもこの門の外で処刑されたため、外国人たちの間では、殉教者の門とも呼ばれた。現在ソイムン(西小門)歴史公園の中にある殉教者顕揚塔はカトリック殉教者に関するメモリアルオブジェである。

イファ(梨花)女子高等学校・シンプソン記念館

<登録文化財第3号> 1915年に竣工した旧イファ学堂の校舎で、現在イファ博物館として使われている。イファ学堂は1886年、アメリカメソジスト派女宣教師であるマリー・F・スクラントンが創設した韓国初の女性教育機関で、イファ学堂という名前は1887年にミヨンソン(明成皇后)により命名された。学校の敷地内にはユ・グアンスン(柳寛順)烈士が洗濯の際に使っていた井戸や、「韓国女性の新教育発祥の地」記念碑、ユ・グアンスンの銅像、ソンタク(孫沢)木テル跡地を示す標石などがある。

[ナムデムン(南大門)市場とチルペ(七牌)市場] ナムデムン市場は1897年1月にオープンした韓国初の都市常設市場である。朝鮮時代初め、ここには常平倉があったが、17世紀に大同法の施行により宣惠厅の倉庫に変わった。1894年租税納貢の措置に従い、現物を保管する必要がなくなったため、商人たちが市場として使えるようにした。ナムデムンの外にはチルペ市場があるが、チョンヌ(鐘楼)、イヒヨン(梨峴)、フンインジムン(興仁之門)内と朝鮮後期の3大市場の一つとして言われる。チルペという名称はここが御宮第7牌の巡廻ギルであったことから名付けられた。

[チョンドン(貞洞)教会] <史跡第256号> アメリカ人宣教師アーヴィング・ラッセル・アーヴィングが設立した韓国初のメソジスト派教会である。ゴシック風の赤レンガの建物で、1895年に着工、1897年に完成した。近くのベジエ(培材)学堂・イファ(梨花)学堂と共に開花期にアメリカの文物を取り入れた通路として役割を果たした教会である。

都城、
これだけ
は知って
おこう

[城壁の跡] スンニエムン区間ではハニヤン都城の痕跡が発見できるスポットが2箇所ある。大韓商工会議所からオリーブタワーまで続く場所に城壁の一部が垣根のように残っており、もう1箇所はチャンドク(昌徳)女子中学校の堀の下の部分に50mほどの四角い城壁一部を見ることができる。

巡城道
案内

[都城沿いのウォーキング] ベクポム(白凡)広場 → ナムデムン(南大門)市場 → スンニエムン → ナムジ(南池)の跡地

→ 大韓商工会議所 → ソイムン(昭義門)の跡地 → ベジエ(培材)学堂東館・ベジエ公園

→ チョンドン(貞洞)教会 → イファ(梨花)女子高等学校 → トニムン(敦義門)の跡地 (徒歩1時間)

[ウォーキングおすすめ区間] ① ② シジョン駅5番出口 → ソウル広場 → チヨンゲ(清渓)広場 → クァンファムン(光化門)広場 → ツッスン(德寿宮) → ソウル市立美術館 → ベジエ(培材)学堂東館・ベジエ公園 → チョンドン(貞洞)劇場 → イファ女子高等学校シンプソン記念館 → 旧ロシア公使館 → トニムン(敦義門)の跡地 (徒歩40分)



150m



イヌアンサン(仁王山)区間

区間

トニムン(教義門)の跡地 → チャンイムン(彰義門)

距離

4km

所要時間 約2時間30分

トニムンの跡地から始まりイヌアンサンを越えてユン・ドンジュ(尹東柱)詩人の丘まで続く区間である。海拔339mのイヌアンサンは風水上右白虎に当たる。巨大な岩が露出している岩山で、チマバウイ(岩)、ソンバウイ(禪岩)、キチャバウイ(汽車岩)など奇岩怪石が多い。仁王という名は仏教式名称で、ムハク(無学)大師がこの山を主山に祀ると仏教が隆盛すると言い残したことから名付けられた。1968年、1・21事件以後民間人の出入が統制されていたが1993年から民間人に開放された。

开放時間：24時間(毎週月曜日休み、月曜日が祝日の場合は火曜日休み)

注意事項：イヌアンサンは岩石が多いため、冬季の登山時は注意しなければならない。





イヌアンサン(仁王山)区間

区間 トニムン(敦義門)の跡地 → イヌアンサン(仁王山)曲城
距離 2km 所要時間 約1時間

① 区間情報: サジクダン(社稷壇)では毎年9月第3日曜日にチョンジュ(全州)イ(李)氏テドンジョンヤグォン(大同宗約院)の主管で社稷大祭(重要無形文化財第111号)が開かれる。

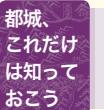
② 交通案内: [トニムンの跡地] 5 ソデムン駅4番出口 → 徒歩2分 / マウルバス鍾路05番 → 「カンブク(江北)サムスン病院」下車 → 徒歩1分
[キヨンヒグン(慶熙宮)] 5 クァンファムン駅1番出口 → 徒歩5分 / サジクダン(社稷壇) 3 キヨンボックン駅1番出口 → 徒歩5分
[イヌアンサン国師堂] 3 トンニンムン駅2番出口 → 徒歩20分

[トニムン(敦義門)の跡地] 都城の西大門であるトニムンがあつた場所である。トニムンはテジョ(太祖)の時代に初めて建てられたが、テジョン(太宗)13年(1413)に建てられたソジョンムン(西箭門)が西大門の機能を果たしていた。しかし、その場所がどこだったかは定かではない。セジョン(世宗)4年(1422)に都城を大々的に修築した際にソジョンムンを閉め現在のトニムンの跡地に新しいトニムンを建てた。それ以後、トニムンはセムンまたはシンムン(新門)も呼ばれ、現在のシンムンロという地名はこれに由来する。日本帝国は1915年に西大門を通る電車を開通したが、その際にトニムンを解体し建材として売却した。現在トニムンの跡地には公共美術品「見えない門」が設置されている。



[キヨンギョジャン(京橋荘)] 史跡第465号。1945年の大韓民国臨時政府の還國から1946年まで事実上の臨時政府庁舎として使われた建物で、國務委員会の開催及び忠誠統治反対運動の主な舞台となつた。また、主席キム・グ(金九)が約4年間(1945~1949)過ごし逝去した歴史の現場である。逝去後、60年中国大使館、ベトナム大使館、病院施設などに使われてきたが、2013年3月、キム・グ先生が居住した当時の臨時政府活動地として復元され市民に開放された。

[Dilkusha(ティーラー家屋)] Dilkushaはアメリカ人の金鉱技術者であり、UPIソウル特派員を務めながら3・1運動を世界に知らせたアルパート・ティラーが建てて1923年から1942年まで過ごした洋風建築物である。Dilkushaとはヒンディー語で「希望の宮殿」という意味で、長い間ベルに包まれていた建物の由来は、2006年にアルバートの息子であるブルース・ティラーの訪韓によって世に知られた。Dilkushaのすぐ隣には樹齢450年以上のイチョウの木があるが、ヘンジュ(幸州)大捷を率いたクォン・ユル(權慤)將軍の家にあった木だと伝わっており、ヘンチョンドン(杏村洞)という地名はこの木に由来する。



[ソウル漢陽都城の跡] 最近ウォラム(月岩)近隣公園に沿って新たに城壁が築かれた。公園造成の途中、ソウル市福祉財団(旧気象庁)建物の垣根土台の下に埋もれていた城壁の一部が見つかった。ホンバドンホン・ナンバ家屋の周辺にある集合住宅の駐車場裏にも城壁の跡が残っている。



[都城沿いのウォーキング] トニムンの跡地 → キヨンギョジャン → ウオラム近隣公園 → ホンバドンホン・ナンバ家屋 → コンビニ(旧オッキヨンイスーパー食品) → 暗門 → イヌアンサン曲城 (徒歩1時間)

[ウォーキングおすすめ区間1] 5 ソデムン駅4番出口 → トニムン(敦義門)の跡地 → ソウル歴史博物館 → キヨンヒグン(慶熙宮) → サジクダン(社稷)近隣公園 → ベッサ・イ・ハンボク(白沙李恒福)の家の跡地 ピルンテ(屏雲台) → ファンハクチヨン(黄鶴亭) → イヌアンサン(仁王山)国師堂 (徒歩1時間)

[ウォーキングおすすめ区間2] 3 キヨンボックン駅2番出口 → キヨンボックン(景福宮)西側の韓屋村 → パク・ノス(朴魯寿)家屋(チヨンノ(鍾路)区立パク・ノス美術館) → イヌアンサン・スソンドン(水洞渓谷) → イヌアンサン公園 → イヌアンサン・ポンバウイ(虎岩) (徒歩1時間)

[ホンバドン(紅泥洞)ホン・ナンバ(洪蘭坡)家屋] 登録文化財第90号、「鳳仙花」、「故郷の春」などで有名な作曲家、ナンバ・ホン・ヨンフ(蘭坡洪永厚、1898~1941)が住んでいた家。彼の代表曲のほとんどはこの家で創られた。1930年代の洋風住宅の様式が綺麗に保存されている。



[イヌアンサン国師堂とソンバウイ(禪岩)] 重要民俗文化財28号。朝鮮デジョの時代にナムサン(南山)に建てた國の神堂である。日本帝国がナムサン中腹に朝鮮神宮を建てた際に國師堂が取り壊されたため、ここで祭を行っていた巫師らがイヌアンサン西裾に國師堂を移し、私設巫俗神堂に建て替えた。國師堂上部にあるソンバウイ(禪岩)は僧帽を被って袈裟をまとった僧侶が座禅する形をした岩である。仏教を排斥していたチヨン・ドジョン(鄭道云)がハニヤン(漢陽)都城の境界を定める際に、ソンバウイ(禪岩)をわざと外したと伝えられる。

[キヨンボックン(景福宮)西側の韓屋村(上村、ウテ)] イヌアンサンとキヨンボックンの間にある韓屋村には日帝時代に建てられた都市型韓屋が多数残されている。朝鮮後期には、サンチョン(上村)、ウテとも呼ばれた。秀麗な山勢や綺麗な水に恵まれていたため、この一帯には王族、高官貴族の家や別荘はもちろん、末端管理人である京衛前の家も多数あった。「上村」という言葉は京衛前の同義語であった。朝鮮末期には中人階級の人や知識人の詩会の場所としてよく利用され、閭巷(村里)文学の中心地となつた。近代以降は、詩人のイ・サン(李箱)、ユン・ドンジュ(尹東柱)、画家のノ・チヨンミョン(盧天命)、イ・ジュンソブ(李仲燮)、チヨン・ギヨンジャ(千鏡子)、イ・サンボム(李象範)などがこの一帯に居住しながら創作活動を行つた。



古美術の中のソウル漢陽都城の姿



*仁王霽色図(1751年) | チョン・ソン(鄭斎)作 | サムスン美術館Leeum所蔵



*現在、イヌアンサンの姿

真景山水画の大家であったキヨムジエ・チョン・ソン(謙齋鄭斎)の家は、イヌアンサン(仁王山)の麓、現在のキヨンボク(景福)高等学校がある場所にあったため、イヌアンサン周辺の風景を描いた絵が多い。仁王霽色図(1751)にもイヌアンサンの尾根に沿って連なるハニヤン都城の姿が描かれている。



*チャンイムン(彰義門)、<社洞八景帖> [年度不詳] | チョン・ソン作 | 国立中央博物館所蔵



*現在のチャンイムンの姿

キヨムジエ・チョン・ソンの<社洞八景帖>の中の一つである「チャンイムン(彰義門)」。この絵は都城の内側から眺めた景色である。チャンイムンを中心に左がイヌアンサン、右がペガク(白岳)である。チャンイムンの両側は山の尾根に沿って城壁が続いている。

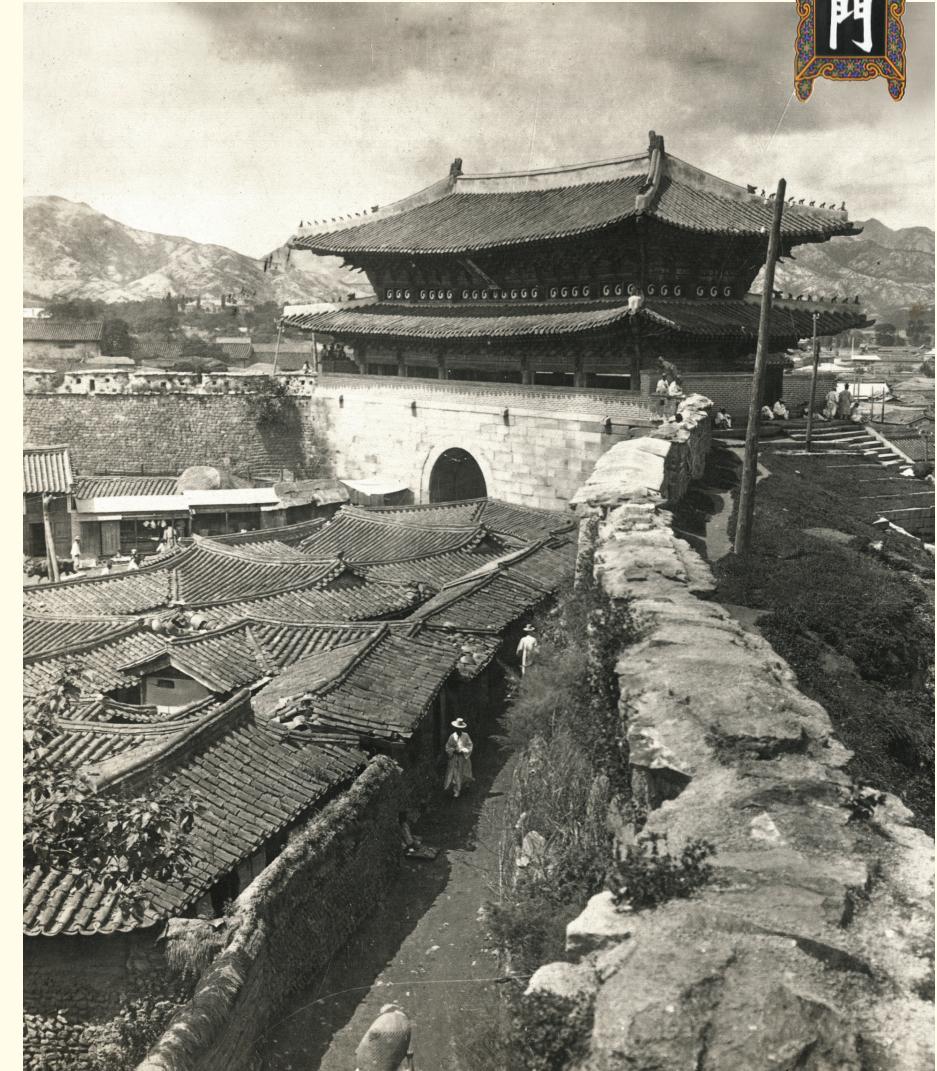


*チョンゲチョン(清渓川)浚渫図(1760年) | 作者不詳 | サムスン美術館Leeum所蔵



ヨンジョ(英祖)の時代のチョンゲチョン(清渓川)浚渫報告書「濬川契帖」には、浚渫工事の完成を祝う場面を描いた「濬川試射闘武図」が収録されている。この絵にはオガンスムン(五間水門)上の城堞部分が鮮明に描かれている。

古写真の中のソウル漢陽都城の姿



*1904年初頭のスニエムン周辺の写真[ジョージ・ロス氏撮影 | ステレオスコープ チョ・サンソン所蔵]

1900年代初めまでスニエムン(崇礼門)左右の城壁が温存されていたことがわかる写真。この城壁は1920年代にすべて取り壊された。



*スニエムン
(崇礼門)復旧の扁額
(2013年5月)

地下鉄で訪れる都城 周辺の観光名所

1号線

- [ソウル駅] 京義 空港 [1 4] スンニエムン(崇礼門)
- [シヨン駅] トッスゲン(徳寿宮)/ソウル市立美術館/チヨンドン(貞洞劇場)/ソウル広場/チヨンゲ(清渓)広場/
ソウル特別市議会/韓国銀行本館/ソイムン(昭義門)の跡地/ファングダン(圓丘壇)/チヨンドン(貞洞)教会
- [チヨンガク駅] ボシンガク(普信閣)
- [チヨンノサムガ駅] タブゴル公園/チヨンゲチョン(清渓川)/チヨンミヨ(宗廟)/インサドン(仁寺洞)
- [チヨンノオガ駅] クアンジャン(広藏)市場/トンデムン(東大門)総合市場
- [トンデムン駅] フンインジムン(興仁之門)/イガヌスムン(二間水門)/トンデムン(東大門)城郭公園/ビョンファ(平和)市場

2号線

- [チュンジョンノ駅] チヨンドン(貞洞劇場)/ハノン・ギジョン(孫基禎)体育公園
- [シヨン駅] トッスゲン(徳寿宮)/ソウル市立美術館/チヨンドン(貞洞劇場)/ソウル広場/チヨンゲ(清渓)広場/
ソウル特別市議会/韓国銀行本館/ソイムン(昭義門)の跡地/ファングダン(圓丘壇)/チヨンドン(貞洞)教会
- [ウルチロイック駅] ミヨンドン・ソンダン(明洞聖堂)
- [ウルチロサムガ駅] チヨンゲチョン(清渓川)
- [トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅] クアンヒムン(光熙門)/トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)/オガヌスムン(五間水門)の跡地

3号線

- [トンニンムン駅] ソデムン(西大門刑務所歴史館)/トンニブ(独立)公園/トンニンムン(独立門)/クォン・ユル(崔栗)都元帥家跡/
ホンバドン(虹把洞ホン・ナンバ)(洪蘭坡)家屋/ウォラム(月岩)近隣公園
- [キヨンボック駅] クアンファムン(光化門)/キヨンボックン(景福宮)/セジョン(世宗)文化会館/国立民俗博物館/
トンイン(通仁)市場
- [アングク駅] チヤンドックン(昌德宮)/ブクチョン(北村)韓屋村/憲法裁判所/ソウル市立チヨンドク(正詠)図書館/
ウンヒヨンゲン(雲峴宮)/ブクチョン(北村)伝統工芸体験館
- [チヨンノサムガ駅] タブゴル公園/チヨンゲチョン(清渓川)/チヨンミヨ(宗廟)/インサドン(仁寺洞)
- [ウルチロサムガ駅] チヨンゲチョン(清渓川)
- [チュンムロ駅] ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)
- [トンディック駅] チヤンチュン(奨忠)体育馆/チャンチュンダン(奨忠壇)公園/チャンチュンドン(奨忠洞)豚足店通り

4号線

- [ソウル駅] 京義 机场 [1 4] スンニエムン(崇礼門)
- [フェヒヨン駅] スンニエムン(崇礼門)/ベクボム(白凡)広場/アン・ジュングン(安重根)義士記念館/ソウル市立ナムサン(南山)
図書館/ナンデムン(南大門)市場
- [ミヨンドン駅] ミヨンドン・ソンダン(明洞聖堂)/ミヨンドン(明洞)通り
- [チュンムロ駅] ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)
- [トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅] クアンヒムン(光熙門)/トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)/オガヌスムン(五間水門)の跡地
- [トンデムン駅] フンインジムン(興仁之門)/イガヌスムン(二間水門)/トンデムン(東大門)城郭公園/ビョンファ(平和)市場
- [ヘファ駅] マロニエ公園/ナッサン(駱山)公園/イファマウル(梨花村)/イファジョン(梨花莊)/薑草生活史博物館
- [ハンソンティープ駅] ヘファムン(惠化門)/旧ソウル市長公館

5号線

- [ソデムン駅] トニムン(敦義門)の跡地/キヨンギヨジヤン(京橋莊)/キヨンヒグン(慶熙宮)/チヨンドン(貞洞教会)
/チヨンドン(漢陽)劇場/チヨンゲチョン(清渓川)/ソウル歴史博物館
- [カーンファムン駅] セジョン(世宗)文化会館
- [チヨンノサムガ駅] タブゴル公園/チヨンゲチョン(清渓川)/チヨンミヨ(宗廟)/インサドン(仁寺洞)
- [トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅] クアンヒムン(光熙門)/トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)/オガヌスムン(五間水門)の跡地

ソウル漢陽都城の 関連機関

【漢陽都城】

- ・漢陽都城ホームページ seoulcitywall.seoul.go.kr
- ・ソウル歴史博物館・ハニヤン都城研究所 www.museum.seoul.kr
- ・漢陽都城博物館

【観光案内所】

- ・アンファムン(光化門)観光案内所 ☎ 09:00~22:00 ☎ 02)735-8688
- ・ナムデムン(南大門)市場観光案内所 ☎ 09:30~18:00 ☎ 02)752-1913
- ・トンデムン(東大門)観光案内所 ☎ 09:00~22:00 ☎ 02)2236-9135
- ・ミヨンドン(明洞)観光案内所 ☎ 10:30~20:00 ☎ 02)774-3238

【関連機関】

- ・文化財庁 www.cha.go.kr
- ・文化体育観光部 www.mcst.go.kr
- ・韓国文化財保護財団 www.chf.or.kr

【自治区】

- ・チヨンノグ(鍾路区) www.jongno.go.kr
- ・ソンブクグ(城北区) www.seongbuk.go.kr
- ・ヨンサング(龍山区) www.yongsan.go.kr
- ・ソデムング(西大門区) www.sdm.go.kr
- ・チュング(中区) www.junggu.seoul.kr

【委員会】

- ・ユネスコ韓国委員会 www.unesco.or.kr
- ・イコモス韓国委員会 www.icomos-korea.or.kr

【ソウル漢陽都城ガイドブック】

- 発行日 2014年 5月
発行先 ソウル特別市文化観光デザイン本部、
漢陽都城都監、張恩善主務官
発行人 ソウル特別市長
企画・制作 ソウル特別市文化観光デザイン本部、
漢陽都城都監、張恩善主務官
デザイン aCreative



ソウル観光案内のすべて! 120番にダイヤルして、韓国語の音声案内が流れましたら、9番を押してください (英語、日本語、中国語、ベトナム語、モンゴル語からお選びください)。

ソウル漢陽都城 周辺の観光名所

9	1・21事態の松	18	国立現代美術館・トップス(徳寿宮館)
	4・19革命記念会館・図書館	38	サジク(社稷)近隣公園
A-Z	Dilkusha(ヘンチョンドン)(杏洞)ティラー一家屋	42	サジクダン(社稷壇)
	Nソウルタワー	36	サムソン(三仙)サンサン(想像)子供公園
A	アルコ美術館	26	サムジョン(三清)公園
	アン・ジュングン(安重根)義士記念館	36	サムジョンガク(三清閣)
	アングクドン(安国洞)ユン・ボソン(尹善普)の家	20	三軍府總武堂
	アンビヨンテグン(安平大君)・イ・ヨン(李鎔)の家跡付岩洞	44	サンホ イ・テジュン(尚虚 李泰俊)の家屋
	イガンスマン(二間水門)	30	ジェドン(箭洞)觀光案内所
	イヌアンサン(仁王山)・スソンドン(水声洞)渓谷	44	スクチョンムン(棗門)案内所
	イヌアンサン(仁王山)曲城	44	スクチョンムン(棗門)案内所
	イヌアンサン(仁王山)公園	42	スピョギヨ(水標橋)
	イヌアンサン(仁王山)國師堂	42	スンニエムン(崇礼門)
	イヌアンサン・キチャバウイ(仁王山汽車岩)	44	セクム子供公園
	イヌアンサン・ソンバウイ(仁王山禪岩)	42	ソイムン(昭義門)の跡地
	イヌアンサン・ポンバウイ(仁王山虎岩)	44	ソウルムンミョ(文廟)及びソンギュングァン(成均館)
	イヌアンサン・モジャバウイ(仁王山帽子岩)	42	ソウル広場
	イフア(梨花)女子高等学校	38	ソウル気象観測所
	イフア(梨花)女子高等学校・シンプソン記念館	38	ソウル歴史博物館
	イファジャン(梨花莊)	28	ソウル市立チョンドク(正詠)図書館
	イファマウル(梨花村)	28	ソウル市立ナムサン(南山)図書館
	イルカ憩いの場	18	ソウル市立美術館
	イルソク(一石)記念館	26	ソウル市庁(新庁舎)
	ウォラム(月岩)近隣公園	42	ソウル新羅ホテル
	オガンスマン(五間水門)の跡地	30	ソウル駅
力	韓国銀行本館	36	ソウル演劇センター
	カンソン(潤松)美術館	22	ソウル定都600年のタイムカプセル
	旧工業伝習所本館	28	ソクバジョン(石坡亭)(ソウル美術館)
	旧ソウル駅舎(文化駅ソウル284)	38	ソコジョン(石虎亭)
	旧ソウル市長公館	22	ソシジョン(序詩亭)
	旧ソウル大学校本館	28	ソソムン(西小門)歴史公園
	旧ソ産婦人科病院	30	ソンジャムダンジ(先蚕壇址)
	旧ロシア公使館	38	ソンナグォン(城楽園)
	キョンギョジョヤン(京橋莊)	42	ソンブク(城北)区立美術館
	キョンヒゲン(慶熙宮)	42	ソンブク(城北)友情の公園
	キョンボックン(景福宮)西側の韓屋村	42	ソンブクチョン(城北川)水源地
	キョンモグン(景慕宮)の跡地	26	ソンブクドン(城北洞)イ・ジョンソク(李鍾奭)の別荘
	キルサンサ(吉祥寺)	22	ソンブクドン(城北洞)チ・ヌク(崔淳雨)家屋
	クアンヒムン(光熙門)	30	タ 大韓医院(ソウル大学校病院附設病院研究所)
	クアンファムン(光化門)広場	38	大韓商工会議所
	クアンファムン(光化門)総合觀光案内所	38	大韓聖公会ソウル主教座大聖堂
	クォン・ユル(權衡)都元師家跡・ヘンチョンドン(杏洞)	42	チ・ギュウシク(崔圭植)銅像
	訓練院公園	30	チャジドンチヨン(紫芝洞泉)
	国立劇場	34	チャムドゥボン(蚕頭峰)フォトアイランド
	国立現代美術館・ソウル館	20	チャンイムン(彰義門)

チャンインムン(彰義門)案内所	18	ナムテムン(南大門)市場観光案内所	38
チャンシンドン(昌信洞)ポンジェマウル(縫材村_採石場の跡地)	28	ハ 漢陽都城博物館(ソウルデザイン支援センター)	28
チャンスマウル(長寿村)	26	パク・ノス(朴魯寿)家屋(ジョンノ鍾路区立)(パ・ノス美術館)	42
チャンチュン(獎忠)体育馆	34	バンゲユン・ウンニヨル(儒溪尹雄烈)の別荘(アムドン(付岩洞))	44
チャンチュンダン(獎忠壇)公園	34	バンヤンツリークラブ&スパソウル	34
チャンチュンダン(獎忠壇)碑	34	ピウダン(庇雨堂)	26
チャンチュンドン(獎忠洞)豚足店通り	30	ピョンファ(平和)市場	30
チャンドク(昌德)女子中学校	38	ビルンドン(儒雲洞)ホン・ゴニク(洪建翊)家屋	42
チャンドックン(昌德宮)	22	ブアム(付岩)薬用水源	44
チュンウン(淸雲)公園	44	ブアムドン(付岩洞)ベッソクドンチョン(白石洞天)	18
チュンム(忠武)アートホール	30	ファンハクチヨン(黃鶴亭)	42
チヨンウンデ(青雲台)	18	ブガク(北岳)八角亭	20
チヨンゲ(淸渓)広場	38	ブクチヨン(北村)文化センター	20
チヨンドン(貞洞)公園	38	ブクチヨン(北村)韓屋村	20
チヨンドン(貞洞)教会	38	ブクチヨン村	22
チヨンドン(貞洞)劇場	38	フンインジムン(興仁之門)	30
チルベ(七牌)市場の跡地	38	ベガク(白岳)マル	18
テハンノ ミュージカルセンター	26	ベガク(白岳)憩いの場	18
テミヨン通り	22	ベガク(白岳)曲城	18
トッスグン(徳寿宮)	38	ベガク・チョッテバウイ(白岳・ろうそく立て岩)	20
トニムン(敦義門)の跡地	42	ベクボム(白凡)広場	36
トンデムン(東大門)観光案内所	30	ベジエ(培材)学堂東館・ベジエ(培材)公園	38
トンデムン(東大門)歴史館1398	30	ベッサ・イ・ハンボク(白沙李恒福)の家の跡地_ビルンデ(儒雲台)	42
トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)	30	ヘファムン(惠化門)	22
トンデムン(東大門)城郭公園	28	ホンジムン(弘智門)とタンチュンデソン(蕩春台城)	44
トンデムン(東大門)総合市場	30	ホンドク(弘德)の畠	28
トンデムンデザインプラザ(DDP)	30	ホンバドン(紅把洞)ホン・ナンバ(洪蘭坡)家屋	42
トンビヨンファ(東平和)市場	30	マボ(麻浦チエ・サヨン(崔思永故宅(ソンブクドン(既北洞))	22
トンムン(東門)市場	30	マルバウイ案内所	20
ナッサン(駒山)公園ノリマダン	26	マロニエ公園	28
ナッサン(駒山)第1・2・3展望広場	26	マンヘハン・ヨンウン(萬海 韓龍齋)のシムジャン(尋牛莊)	22
ナッサンジョン(駒山亭)	28	ミョンドン(明洞)観光案内所	36
ナムサン(南山)・フェヒヨン(会賢)裾の遺構発掘現場	36	ミョンドン(明洞)辺り	36
ナムサン(南山) J-Gran House	34	ミョンドン・ソンダン(明洞聖堂)	36
ナムサン(南山)ドラマセンター	36	ミョンニュンドン(明倫洞) チャン・ミヨン(長勉)の家屋	22
ナムサン(南山)ロープウェイ乗り場	36	メボン山公園	34
ナムサン(南山)野生花公園	34	モンミヨッサン(木見山)烽燧台の跡地	36
ナムサン(南山)野外植物園	34	ユ・グアンスン(柳寬順)記念館	38
ナムサン(南山)展示館	34	優秀景観眺望名所(ソンブクグ(城北区)方向)	20
ナムサン(南山)八角亭	36	優秀景観眺望名所(チヨンノグ(鍾路区)方向)	20
ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)	34	優秀景観眺望名所(ソングアク(城郭)マル)	34
ナムジ(南池)の跡地	38	ユン・ドンジュ(尹東柱)文学館	18
ナムビヨンファ(南平和)市場	30	ユン・ドンジュ(尹東柱)詩人の丘	44
ナンソムン(南小門)の跡地	34	ワリヨン(臥龍)公園	22
ナンデムン(南大門)市場	38		